

JOURNAL

of

The Graduate School of Humanities

24

The Effects of Increase of Contacts and the Way of Contacts for Vocabulary Learning —An Analysis Focusing on Middle and Lower Level Students in the Class – AIZAWA Saho	1
Relationship between Grammatical Ability and Listening Ability: Focusing on the Subject of Request or Permission Expression of the Verbs that Mean Giving and Receiving	SHIRATORI Ai · 21
Feedback and Its Effect for Learning — What Can be Seen From Self-Correction —	NAKASHIMA Yukiko · 43
The Duality in Dante Gabriel Rossetti's Works: The Poem and Painting, <i>The Blessed Damozel</i>	EBINA Megumi · 57
The Impact of Narrative Structure on the Temporal Flow of James Hogg's <i>The Private Memoirs and Confessions of a Justified Sinner</i>	KONO Keiko · 67
Improvisation: From the Use of <i>Nanka</i> in Self-disclosure	SUGISAKI Miki · 81
The Meaning of the Overwritten Subject: J. D. Salinger's "A Perfect Day for Bananafish" and "Seymour: An Introduction" as the Cold War Narratives	NISHIGAI Maki · 93
Quotations with <i>think</i> -verb in Japanese and English Conversation	NOMURA Yuko · 105

Heike Monogatari Hyoban Hidensho: The Curing Way	ABE Michiyo · 1
Typeset Versions of Shigeyama Family Kyogen Scripts of the Okura School: "Keimyō," "Niku Juhachi," "Roren," and "Nagamitsu" SAKAMOTO Kiyoe, KAWAKAMI Mayuko, HAYASHI Miki, and Szilagyι Andrea	15
Typeset Version of the Ken Tenji-bon Text of the <i>Man'yōshū</i>	YASUI Ayako, FURUSAWA Ayako, TANAKA Hiroshi · 29

日本女子大学大学院文学研究科

紀要

第24号

平成

二十九年

日本女子大学大学院文学研究科

紀 要

第24号

『平家物語評判秘伝抄』——養生の道——	阿部美知代	1
大藏流茂山家狂言台本翻刻		
……坂本清恵・川上真由子・林美樹・シラージアンドレア		15
検天治本万葉集翻刻	安井絢子・古澤彩子・田中大士	29
授業における語の接触方法および接触回数増加が語彙学習に与える効果		
— クラスの中心・下位層に着目した分析 —	相澤早帆	1
文法能力と聴解能力の関係性		
— 授受動詞と使役の依頼・許可表現の主語に焦点をあてて —	白鳥藍	21
フィードバックと学習効果 — 自己訂正から見えるもの —	中島由季子	43
ダンテ・ゲイブリエル・ロッセッティの作品における二重性		
— 詩と絵画『天つ乙女』から —	海老名恵	57
物語の可能性：James Hogg 著		
<i>The Private Memoirs and Confessions of a Justified Sinner</i> の構造と時間を考える		
……	甲野恵子	67
自己開示場面における「なんか」の即興性	杉崎美生	81
上書きされる主体の意味		
……	西貝真紀	93
冷戦物語としての「バナナフィッシュ」にうってつけの日、「シーモア」序章		
……	野村佑子	105
日英語会話における思考動詞を用いた引用について		
平成二十九年度大学院文学研究科学位論文・修了論文題目・研究主題一覧		117

平成29年

日本女子大学

日本女子大学大学院文学研究科紀要

編集規定(抜粋)

1. 本紀要は、本研究科学生および修了者に対して、研究を発表する場を提供することを主たる目的とし、毎年三月に発行する。
2. 略
3. 本紀要に執筆できる者は、以下の通りとする。①本研究科在学学生、②本研究科修士課程または博士課程前期修了者、後期課程満期退学者、本研究科において博士の学位を授与された者、③本研究科専攻教員。
4. 本紀要に掲載する論文は、単著・共著を問わない。ただし共著の場合は、執筆者の少なくとも1名が、本規定第3項に該当する者であること。
5. 論文の執筆者が、本規定第3項の①または②に該当する場合は、当該専攻による選考を経ること。
- 6・7. 略
8. 執筆者には抜刷40部を贈呈する。それ以上は、実費を本人負担とする。

執筆要項

1. 原稿は、図表および注を含めて400字詰原稿用紙30～50枚とする。英文の場合はこれと同等の長さとする。
2. 原稿の紀要委員会への最終提出期限を10月末とする。
3. 原稿は、原則として横書きとする。ただし、日本文学および史学専攻においては縦書きとすることができる。
4. 原稿は、原則としてデジタルデータとプリントアウト2部を提出すること。デジタルデータには作成環境、氏名をテキスト形式で明記すること。(事故に備え、提出前にあらかじめ原稿のコピーを手元に保管しておくこと。)
5. 原稿には、英文タイトル、ローマ字氏名、所属および大学院修了年を明記すること。ただし、英文論文は、日本語タイトル、氏名を明記すること。
6. 原稿には、横書き和文700字程度の要旨と、英文による500語程度の要旨を、そして和文・英文ともにそれぞれ5語以内のキーワードを添付すること。
7. 図表は、本文とは別紙に書き、「図1」「表1」のように通し番号をつける。表の題名はその上部に、図と写真の題名は下部に書く。説明文はいずれも下部に書くこと。そして、本文の右余白に、表、図、写真の挿入箇所を指定しておくこと。
8. 校正は原則として再校までとし、著者が行う。

日本女子大学大学院文学研究科紀要 第24号

平成30年(2018) 3月15日 発行

編集委員 馬場聡・平石淑子・渡部麻実
押田昊子・濱田美枝子・是恒香琳

発行者 日本女子大学
〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1
電話 03-3943-3131 (代表)

印刷 株式会社 秀 飯 舎
〒331-0058 埼玉県さいたま市西区飯田70
電話 048(624)1121